

令和7年度 美しが丘西小学校 学校評価報告

～「知・徳・体・公・開」と非認知能力の育成～

【重点：非認知能力】 自己肯定感の育成



97.3%：学校生活を通じた社会スキルの習得
Q11において、道徳や「偉人タイム」等の特別活動を通じて、これからの成更に不可欠な社会性が着わられています。



95.4%：行事への主体的関与による通常感の醸成
Q14において、運動会やウィンターコンサート等の行事を遊び、集団への帰属感と自己肯定感が大きく育まれています。

【徳】 豊かな心と 多様性の尊重



84.5%：多様性を尊重し、豊かな心を育てている
Q2の授業、人権学習や道徳の学習を通じて、多様性を認め合う土壌が育まれています。



KEY FINDING
67.2%：いじめを未然防止に向けた主体的活動の交差
Q10の結果より、多機身の定なる探検隊化や「藤子子ども会議」の取り組みの進捗が今期の課題として学ばれています。

【知】 授業改善と ICT活用



78.8%：タブレット端末等の活用による自分に合った学び

Q2の結果より、茶会や動画授業、ICTツールを効果的に活用した学習が定着しつつあります。

80.3%：よく分かる楽しい授業の展開

Q2において、発注分担任や専任部の導入により、専門性を活かした「よく分かる楽しい授業」が評価されています。



KEY FINDING

84.6%：相手の考えを開き、自分の意見を言う力の向上
Q4では、昨年度の課題であった「対話する力」において、指刃先生学習度を着けて8冊上の肯定回答を得るまでに成長しました。



【学校生活の基盤】

96.1%：楽しく安心して学校に通っている

必須Q1において「十分あてはまる」「少しあてはまる」の合算が9割を超え、子どもたちが安楽した学校生活を透れていることが確認されました。

【体】 健やかな体と 安全への意識



81.8%：食育活動の効果を実感

Q6において、豆蔵み大会などのイベントや給食活動の取り組みを通じ、正しい番強いや食への関心が変わっています。



73.3%：安全な生活への児童意見の反映

Q1の結果より、健評のクラス毎種別し合いなど、安全への児童意見の意見反映が一定の評価を得ています。

【公・開】 地域愛着と 社会とのつながり



84.6%：地域への要着と交流の深まり

Q6において、地域がランディアやおやじの会、活元農園との関わりを通じて、ふるさとを愛する心が育まれています。

【今後の課題】

66.8%：多様なニーズを支える体制の周知

Q13において、児童定援筆任持講やルーム（特別支援課程）の役割・活躍の仕組みについて、要なる情報発信と退願度が必要とされています。